令和4年度　山口県立下関北高等学校　学校評価書　　校長(和泉屋　紀之)

1　学校教育目標

〈めざす学校像〉
地域と連携・協働する教育活動の推進により、郷土への愛着と誇りを育み、未来社会に対応できる実践力を培う学校

〈育てたい生徒像〉
・主体性をもって多様な人々と協働して学び、地域の活性化や課題解決に貢献する人材（自助）
・郷土への愛着と誇りをもち、地域や人とのつながりを大切にする心豊かな人材（奉仕）
・夢や希望をもって未来を切り拓く、確かな学力を備えた人材（創造）

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

①少人数・習熟度別授業や個別指導等、個に応じたきめ細かい指導が、生徒の基礎学力の定着や授業の満足度に結びついている一方、授業の進度や宿題の量などについての意見もあり、多様化する生徒のニーズに応える学習指導の在り方について今後も検討していく必要がある。
②主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTを適切に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、実践によって生じた課題を中心に研修を行う必要がある。
③礼儀作法や規範意識の醸成については、生徒の自己指導力の育成が不可欠である。校内規律に関しては、「守らされているもの」という意識から、生徒自らが規律の意義を理解して「守るべきもの」として行動するという自律性を育むことが重要である。そのため、生徒及び保護者などに、入学後の早い段階で、校則などの周知徹底を図っていく必要がある。
④高い治療率の維持に向けて、全体指導、教科指導や保健指導のほか、各学級や部活動等でも関係教員の協力を得ながら、組織的に取り組んでいくことが重要である。
⑤キャリア教育について、大学見学の訪問先や職業理解・進路ガイダンスの講師を適切に選定するなど、生徒の実情や進路希望に対応できるよう改善していく。また、保護者に対する情報提供については、入学式や懇談会等の機会に直接提供するなど、より積極的な方法を検討していく必要がある。
⑥本校の特色である地域と連携した教育活動の更なる充実を図るとともに、志願者の増加に向けて関係者の意見を聞く場を設けるなどしながら、本校の魅力を積極的に発信していく必要がある。
⑦施設設備について安全点検及び営繕に努めるとともに、必要な予算について優先順位を明確にして県へ強く働きかけを行うことが必要である。
⑧教職員のライフ・ワーク・バランスの実現、持続可能な勤務体制の構築に向け、働き方改革を一層強力に推進していくことが重要である。

3　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

・ICT環境を効果的に活用し、生徒一人ひとりの学力の向上と進路実現をめざす教育の推進
・心身ともに健やかで、主体的、積極的に行動できる生徒を育成する教育の推進
・豊かな人間性と社会貢献への意欲・態度を育成する教育の推進

チャレンジ目標:「日進月歩」

4　自己評価　／　5　学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	学習指導の改善・充実	○学習指導要領の改訂や高大接続システム改革に対応した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（授業評価の活用、研究授業及び研究協議、校内研修会の実施）による学力の向上	4：学習指導に対する満足度（生徒）が80%以上であった。 3：学習指導に対する満足度（生徒）が70%以上であった。 2：学習指導に対する満足度（生徒）が60%以上であった。 1：学習指導に対する満足度（生徒）が60%未満であった。	4	○　授業アンケートにおいて、肯定的意見が9割強であった。また、学習指導に対する満足度は、「どちらかというと満足」も含めると生徒 97%、保護者81%と高い評価を得ている。 ○　授業のスピードを速くしてほしいなどの意見もあり、自主的な活動を促進できるような授業づくりや、授業の内容の充実とともに精選についても検討していく必要がある。 ○　全ての教科で研究授業・研究協議を実施しているが、ICTを活用した授業展開をさらに進め、生徒の学習意欲向上につながるように研究していきたい。	・ICT活用も推し進めながら、少人数・習熟度別授業の良さを生かし、幅広い進路希望に対応できる授業をさらに研究していく必要がある。 ・生徒の要望をくみ取ってすべての生徒に「わかる授業」の実践のため、さらなる工夫をお願いしたい。	B
	新たな学校づくりの推進	○時代や地域のニーズを踏まえた特色ある教育活動の実践 ○下関北高校の2・3年次で実施する特色ある教育課程に向けた体制整備	4：特色ある教育課程を実施し、その魅力を地域に発信することができた。 3：特色ある教育課程を実施することができた。 2：特色ある教育課程に向けた体制づくりが行われた。 1：特色ある教育課程に向けた十分な体制づくりができなかった。	3	○　約9割（昨年度比7ポイントアップ）の生徒、8割（昨年度比2ポイントアップ）の保護者が、本校では他の高校では体験できない特色ある教育活動に取り組めていると感じている。 ○　各授業において、地域と連携した教育活動や各種検定（英検、漢検、ビジネス文書等）・異文化理解や職業理解など、特色ある教育活動が展開できた。 ○　科目の実施に当たり、どの科目についても検討を重ね、スムーズに実施できた。	・地域や自治体と連携した教育活動から、地域やそこに住んでいる人々への愛着や誇りが高まっており、生徒の成長につながっている。 ・地域との連携、小・中・高の連携によって、地域の活性化が進むことを期待している。 ・教育課程内で、可能であればより充実させていただきたい。	A
生徒保体	自己指導能力を育てる	○公私を意識したけじめのある態度をとらせ、規範意識を身につけさせる。 ○諸活動において自己の役割や責任を果たすことで自己有用感を高める。	4：全教職員が協力した取組となり、十分な効果があった。 3：生徒保体課や大半の教員による指導が行われ、ある程度の効果があった。 2：生徒保体課や半数の教員による指導が行われたが、あまり効果がなかった。 1：生徒保体課以外の協力体制がなく、不定期な取組に終わり、全く効果がなかった。	3	○　アンケート結果では、「学校生活のきまり」等の遵守に関して、教員と生徒・保護者の評価に隔たりを感じる。生徒・保護者の意見も取り入れた校則の見直しや、指導基準の明確化、個に応じた指導が必要である。 ○　問題行動の組織的対応はしっかりしており、保護者を交えての指導ができた。学年集会も適時実施され、集団としてまとまろうとする態度、北高生としての誇りの育成を図った。	・きめ細かい生徒指導が行われており、大半の生徒は基本的な生活習慣が身に付いている。 ・教職員の50%は、生徒がルールを守っていないと考えている。教職員が、ルールを守っていると思えるよう、指導方法の共通理解を図り、工夫・改善、指導基準の明確化に取り組んでもらいたい。 ・生徒がより自己指導能力を高められるよう支援していただきたい。	B
		○学校安全アンケートを通じていじめの早期発見に努め、いじめを見たり聞いたりした場合に、すぐに教員に話せる環境づくりに取り組む。	4：90%以上の生徒が、中傷・嫌がらせ・いじめなどの行為がないと回答。 3：80%以上の生徒が、中傷・嫌がらせ・いじめなどの行為がないと回答。 2：70%以上の生徒が、中傷・嫌がらせ・いじめなどの行為がないと回答。 1：70%未満の生徒が、中傷・嫌がらせ・いじめなどの行為がないと回答。	4	「第1回学校安全に関するアンケート調査」では、95.31%の生徒が、「第2回学校安全に関するアンケート調査」では、97.09%の生徒が、「中傷・嫌がらせ・いじめなどの行為がない」と回答したが、2名の生徒が第1回、第2回と続けて「悪口・中傷、嫌がらせ、いじめなどにより、嫌な気持ちになったことがある」と回答した。 今後もアンケート等をもとに、担任、教育相談と連携し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を心掛けていきたい。	・「学校安全に関するアンケート調査」の提出率を100%にして、「いじめ」の認知にしっかり取り組んでもらいたい。また、「いじめ」が出た時にどう対応するかに重点をおいて取り組んでいただきたい。 ・今後も日常の状況観察や情報収集に努め、子どもの安心安全をお願いしたい。	B

生徒保体（つづき）	健康管理に努める	○各種検査における治療率の向上	4：治療率が、90～100%であった。 3：治療率が、70%～89%であった。 2：治療率が、50%～69%であった。 1：治療率が、1%～49%であった。	3	○昨年は受診対象が119人で治療が最終的に100%に達したため、今年度は受診対象者が70人に大幅に減ったと思われる。 ○病院に行かれない理由として、部活動による忙しさを挙げる生徒が多かったため、部活動の顧問と協力し、受診に行ける期間を本人に設定させるなど、具体的な指導を行った。 ○昨年度の同じ時期の98.3%には満たないが、学年末まで未受診者へ保健指導を進めていく。	・昨年度と同様に、治療率がほぼ100%となるよう、クラス、部活動等一体なって取り組んでもらいたい。来年度も生徒の健康状況の把握に努め、治療への取組を定着させてほしい。	B
進路指導	キャリア教育の推進	○有効な体験的進路学習の実施による進路意識の高揚 大学訪問 進路講話 面接ガイダンス 職業理解ガイダンス ホームカミング ガイダンス 受験体験報告会　等	4：事後アンケートにおいて、生徒の満足度が5段階評価で4．5を超えた。 3：事後アンケートにおいて、生徒の満足度が5段階評価で4を超えた。 2：事後アンケートにおいて、生徒の満足度が5段階評価で3．5を超えた。 1：事後アンケートにおいて、生徒の満足度が5段階評価で3を超えた。	3	○　体験的な進路学習の満足度は、平均で4．1（5段階評価）であり、生徒の感想からも、希望進路確定のための参考としている状況が読み取れる。 ○　9割以上の生徒、8割近くの保護者が、体験的進路学習を通じて、進路意識が高まっていると感じている。 ○　来年度に向けて、大学見学の訪問先や職業理解及び進路ガイダンスの実施方法や場所の選定など効果的かつ体系的なキャリア教育の実施方法について進路指導課で検討していく。 ○受験体験報告会は形式を変えることで、多くの1，2年生が熱心に3年生の話を聞くことで、進路意識を高めることができた。	・体験的な進路学習に対する生徒の満足度が高く、大半の保護者も、その効果を評価している。行事についても改善を行い満足度を高める工夫を行っている。 ・生徒の進路意識の高まりを実感できていない教職員もいるので、進路意識を高める組織的な取組を検討していく必要がある。	A
	進路に対する意識啓発の一層の促進	○「進路だより」での情報発信 ○「進路面談」（課長実施、1・2学年全員対象）による個人の状況把握、相談、情報提供	4：「進路だより」を年間10回程度発行し、「進路面談」を1・2学年で年1回実施した。 3：「進路だより」を年8回程度発行し、「進路面談」を1・2学年で年1回実施した。 2：「進路だより」を年6回程度発行し、「進路面談」を1・2学年で年1回実施した。 1：「進路だより」を年6回程度発行したが、「進路面談」を2学年で年1回実施した。	3	○「進路だより」については、現在までに計7回発行している。 ○「進路面談」については、１年生については１月に１人1回ずつ実施済み、２年生については２月に１人１回ずつ実施している。 ○９割以上の生徒が、進路選択に必要な情報が得られていると感じている。一方、保護者の22%が否定的な回答をしており、PTA総会、保護者懇談会等を活用して適切な情報提供を考えていきたい。	・「進路だより」や「進路面談」を通じて、生徒に進路に関する情報が適切に提供されるとともに意識啓発が行われているが、PTA総会や保護者懇談会等での保護者へのより効果的な進路情報の提供方法について工夫・改善をする必要がある。 ・1・2学年との面談のタイミングは現状（冬期）が適切である。	B
学校経営	コミュニティ・スクールの仕組みを生かした地域連携の推進	○コミュニティ・スクールの仕組みを生かした学校運営の改善 ○地域人材による学校支援や学校による地域貢献活動の推進	4：前年度に比べ、地域と連携した教育活動が増加した。 3：前年度と同様に、地域と連携した教育活動が積極的に行われた。 2：前年度に比べ、地域と連携した教育活動が縮小した。 1：地域と連携した教育活動が、ほとんど行われなかった。	3	○　学校設定教科「地域探究」では、受講生徒36人が5つのグループに分かれ、テーマを決めて地域の課題解決に向けた調査・研究を行った。 ○　前年に比べて学校説明会への参加生徒数が増加した。新たな取組として、小中高合同清掃活動を実施することができ、地元小・中学校の子どもたちと本校の生徒とのつながりを強くすることができた。 ○　９割以上（昨年度比6ポイントアップ）の生徒、7割を超える（昨年度比2ポイントアップ）保護者が、地域やそこに住んでいる人々への愛着や誇りが高まったと考えている。	・今年度についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、地元小・中学校や地元社会福祉協議会と連携して新たな取組を実施することができている。引き続き、地域と連携・協働した教育活動やボランティア活動の充実を図ってほしい。	B
	志願者の増加に向けた学校の魅力発信	○学校説明会、オープンスクール等の活性化 ○学校HPや学校通信による学校情報の提供、マスコミを活用した情報発信	4：学校の魅力を積極的に発信し、志願者が増加した。 3：学校の魅力を積極的に発信し、志願者は前年度並みであった。 2：学校の魅力を発信する機会が少なく、志願者は前年度並みであった。 1：学校の魅力を発信する機会が少なく、志願者が減少した。	3	○昨年に引き続き、１月に地元小中学校との「熟議」を実施、今年度は地元の方々も加わって、『地域の人口増加のためにできること』をテーマに有意義な話し合いを行った。 ○　来年度に向けて、新たな情報発信の方法や教育課程改革について校内での議論を進めている。 ○　教職員約９割の生徒・約７割の保護者が、本校の魅力が積極的に発信されていると感じている。一方、志願者が減少傾向にあり、大きな課題である。	・生徒を主体とした学校の情報発信にも取り組むなどしているが、依然、中学校卒業者数の減少等により、志願者が伸び悩んでいるという課題がある。さらに効果的な情報発信の方法について研究してほしい。訪問での学校紹介やオープンスクールでの内容工夫に期待したい。	B
学校事務	学校運営の活性化	○事務職員と教員との連携強化 ○管理運営経費の節減 ○学校教育目標達成のための効率的な予算執行の推進	4：3つの具体的方策が十分に達成されている。 3：2つの具体的方策が十分に達成されている。 2：1つの具体的方策が十分に達成されている。 1：どの具体的方策も十分に達成できなかった。	3	○　本年の学校運営に必要な経費について早期に関係教員と協議し、必要な経費を効率的に執行することができた。 　また、新型コロナウイルス感染症対策の関係予算について既存の予算の配分を工夫するなど積極的な確保に努めた。 ○　被服教室等特別教室の空調や水道配管不具合箇所改修等、修繕の予算確保をすることができた。 ○　県の極めて厳しい財政状況を踏まえ、職員会議において県予算の概要と本校の予算についての研修を行うなど、より効率的な予算執行に努めている。 ○　ICT関係予算について、昨年度導入した機器を使用しやすい環境整備に向けて今年度の予算を効率的に執行できた。	・新型コロナウイルス感染症対策の関係予算について柔軟な対応を行い、学校運営に必要な経費の予算など、学校運営の活性化につながる予算執行が行われているので、継続していただきたい。	A
	接遇の向上	○来客に対する接遇の向上 ○「お待たせしない」をコンセプトとした取組の推進	4：来客等の接遇が大幅に向上した。 3：来客等の接遇が向上した。 2：来客等の接遇があまり向上しなかった。 1: 来客等の接遇が全く向上しなかった。	3	○　今年度も「来客等をお待たせしない」というコンセプトで接遇に取り組み、昨年度から職員朝礼後に事務室関係職員全員でミーティングを行っている。これにより、学校内外での行事や教職員の勤務動静などを共有することができた。 ○　今年度も事務職員全員が執務中に名札を着用することにより、接遇に対する意識向上に努めることができた。 ○　来客や電話の取次ぎで、相手を必要以上待たせることがないよう、職員室内の呼び出しが円滑に行える仕組みを整えたことにより、意識の更なる向上を図れた。 ○　学校行事等を的確に把握できるよう、教員室との連携をこれまで以上に行うことができた。	・接遇の向上に向け、職員の意識改革や研修に積極的に取り組んでいる。 ・電話の対応も適切であり、気持ちよく感じており、続けていただきたい。	A
業務改善	業務の効率化の推進	○「スクラップ＆ビルド」の視点からの業務の見直し ○「一人で行うより複数で」の視点からの、組織的な業務の展開	4：ほぼすべての教員が前年度より授業や生徒指導など、生徒と向き合う時間が増えたと感じた。 3：ある程度の教員が前年度より授業や生徒指導など、生徒と向き合う時間が増えたと感じた。 2：ある程度の教員が業務時間（授業やその準備に係る時間を除く）が増え、忙しくなったと感じた。 1：多くの教員が業務時間（授業やその準備に係る時間を除く）が増え、忙しくなったと感じた。	3	○　本校の勤務環境については、一定数、良くないと考えている教職員がいる。 ○　物的な環境については、今後も整備を進めていく必要がある。 ○　本校の勤務実態については、大半の教職員が肯定的に感じている。 ○　業務の効率化をさらに推進していくため、各分掌主任を中心に本年度の成果と課題を整理し、全校体制で業務の「スクラップ＆ビルド」を進めていく必要がある。	「スクラップ＆ビルド」を進め、業務を精選するとともに、施設・設備の改修や修繕を進め、勤務環境を改善することが望まれる。 ・さらに組織的に業務を行うことにより、業務の効率化に努めてほしい反面、生徒との時間についてはしっかりと確保してもらいたい。	B

業務改善（つづき）	教職員の心身の健康の維持	○年休や代休等の活用促進 ○部活動の休養日の徹底、時間外業務の縮減	4：教員の時間外業務が前年度の30%以上減少し、大きな成果が得られた。 3：教員の時間外業務が前年度の15%以上減少した。 2：教員の時間外業務は前年度と同程度であった。 1：教員の時間外業務は前年度よりも増加した。	3	○　本年度も働き方改革推進プランや部活動運営方針を策定し、毎月の職員会議や職員朝礼等で時間外業務時間の状況を説明し、働き方改革の必要性を確認するとともに、「一人で抱え込まずに、声を掛け合いみんなで対応！」を合言葉に多忙な教員のサポート体制を整えた結果、時間外業務時間は1月末時点で前年度比17%の減少となった。臨時休校があった一昨年度と比べても8%減少しており、教員の意識改革はもちろん行動にも変容が見られる。	・月平均の時間外業務時間が前年度比で17%減少しており、成果である。教職員の働き方改革と生徒への指導の充実は、二律背反な部分もあり大変だとは思うが、子どもたちのために頑張ってほしい。また、健康保持とワーク・ライフ・バランスを図るための意識改革も引き続きお願いしたい。	B

6　学校評価総括（取組の成果と課題）

【教務】
・少人数・習熟度別授業、進路や希望に沿った科目選択など、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導を実施している。授業評価アンケートや学校評価アンケート等で、生徒や保護者の多数から肯定的な意見を得ることができた。一方、授業の進度への要望、宿題に関する要望などがあり、多様化する生徒のニーズに応える授業づくりを今後も検討していく 必要がある。
・各授業において、地域と連携した教育活動や各種検定、異文化理解・職業理解など、特色ある課養育活動を展開し、学校評価アンケートで生徒や保護者から多くの肯定的な評価を受けた。
・令和4年度から実施された観点別評価について評価の基準の在り方を分析して、よりよい評価ができるように協議を進めている。
・各教科で、ICTを活用した研究授業を積極的に行うとともに、研究協議や教員研修を実施するなど、授業改善に向けた研修の充実が図ることができた。
・学校説明会、ホームページ、学校通信、PTA新聞等で本校の取組を積極的に情報発信することができた。

【生徒保体】
・登校指導、昼休みの巡視、頭髪服装検査など、全教員が協力して組織的に実施することができた。
・各クラス・学年・部活動からの情報を一元化して、生徒保体課と教育相談のサポート体制を軸に、全教員による組織的な指導を行い、問題行動の未然防止に努めたい。
・生徒会執行部が、教員の昼休み巡視に同行する試みを実施し、そこでの取組について、生徒総会での発表を行った。
・年3回の学校安全アンケートにより『いじめ』の早期発見に努め、発見した場合には教育相談、学年、スクールカウンセラー等を連携して対応を行っている。
・アンケート項目の「学校生活のきまり」等の遵守に関して、教員と生徒・保護者の評価に隔たりがあり、来年度に向けて校則や生徒指導の見直しの仕組みについて検討している。
・問題行動の組織的対応はしっかりしており、保護者を交えての指導ができた。学年集会も適時実施され、集団としてまとまろうとする態度、北高生としての誇りの育成を図った。
・治療率を向上させるために、全体指導や教科指導、保健室来室時の指導を重点に行った。また、各クラスや部活動等、一体となって指導を行っている。

【進路指導】
・今年度は国公立大学の推薦入学を受験した8名全員が合格する等、多くの生徒が第1希望の進路先を決定することができた。
・体験的な進路学習の満足度は、平均で4．1（5段階評価）であり、生徒の感想からも、希望進路確定のための参考としている状況が読み取れる。
・9割以上の生徒、8割近くの保護者が、体験的進路学習を通じて、進路意識が高まっていると感じている。
・次年度に向け、より効果的かつ体系的なキャリア教育の実施方法について進路指導課で検討を行う。具体的には、「大学見学」における訪問先のより適切な選定、職業理解および進路ガイダンスは講師のより適切な選定等である。
・「進路だより」を 計7回発行したり、「進路面談」を1・2年生全員を対象に実施したりして、生徒が必要な進路情報を得られるよう工夫している。
・「受験体験報告会」では形式を変え、多くの1，2年生が熱心に3年生の話を聞くことで、進路意識を高めることができた。こういったことから、9割以上の生徒が、進路選択に必要な情報が得られていると感じている。一方、保護者の22%が否定的な回答をしており、PTA総会、保護者懇談会等を活用して適切な情報提供が必要であると考える。

【学校経営】
・学校運営協議会において、学校と地域が連携した教育活動の推進方策について協議を重ねることにより、コミュニティ・スクールの仕組みを活用した学校運営の改善を図ることができた。
・学校設定教科「地域探究」において、地域と連携・協働した教育活動を体系的に実施し、地域やそこに住んでいる人々への愛着や誇りを高めることができた。
・「地域の人口増加のためにできること」というテーマで、本校生徒会執行部と豊北小学校代表児童・豊北中学校生徒会による熟議を、実施した。今年度は小中高学校運営協議会委員も参加し熟心な議論を行うことができた。
・昨年度の熟議で提案された小中高合同清掃活動を実施することができ、地元小・中学校の子どもたちと本校の生徒とのつながりを強くすることができた。
・学校説明会では生徒による学校紹介、模擬授業への誘導等生徒が活躍する場面を増やし中学生へ魅力伝わるよう工夫し、昨年度よりも多くの中学生が参加した。
・学校の魅力発信については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、生徒会新聞や生徒が寄稿した学校通信の地域への配布など、生徒を主体とした取組を継続することができた。しかし、依然、志願者数が伸び悩んでいることから、新たな情報発信の方法や教育課程の改革等、さらなる改革について校内で議論を深めている。

【学校事務】
・本年の学校運営に必要な経費について早期に関係教員と協議し、必要な経費を効率的に執行することができた。また、新型コロナウイルス感染症対策の関係予算について既存の予算の配分を工夫するなど積極的な確保に努めた。
・被服教室等特別教室の空調や水道配管不具合箇所改修等、修繕の予算確保をすることができた。
・県の極めて厳しい財政状況を踏まえ、職員会議において県予算の概要と本校の予算についての研修を行うなど、より効率的な予算執行に努めている。
・ICT関係予算について、昨年度導入した機器を使用しやすい環境整備に向けて今年度の予算を効率的に執行できた。
・今年度も「来客等をお待たせしない」というコンセプトで接遇に取り組み、昨年度から職員朝礼後に事務室関係職員全員でミーティングを行っている。そのことにより、学校内外での行事や教職員の勤務動静などを共有することができた。

【業務改善】
・本校の勤務実態については、大半の教職員が肯定的に感じているが、施設設備について不満をもつ教職員が一定数いることから、引き続き施設・設備の改修や修繕を進めていく必要がある。
・働き方改革推進プランや部活動運営方針を策定し、教員の意識改革に取り組んだ結果、昨年度と比較して時間外業務時間が前年度比で17%減少しており、月の時間外業務時間がが4月には一人出たが、それ以降はゼロであった。
・月の時間外業務時間が80時間を超える教員が延べ5人名、100時間を超える教職員が延べ1名出てしまったことから、教職員のワーク・ライフ・バランスの実現や、持続可能な働き方の確立、より質の高い教育の 提供に向け、引き続き、各分掌主任を中心に本年度の成果と課題を整理し、全校体制で業務の「スクラップ＆ビルド」を進めるとともに、多忙な教員のサポート体制を整えるなど、働き方改革をさらに推進していく必要がある。
・重点目標の評価基準について、成果が上がれば上がるほど厳しいものとなることから、前年度との比較によらない基準を検討していく必要がある。

7　次年度への改善策

①少人数・習熟度別授業や個別指導等、個に応じたきめ細かい指導が、生徒の基礎学力の定着や授業の満足度に結びついている一方、授業の進度への要望、宿題に関する要望などがあり、多様化する生徒のニーズに応える授業づくりを今後も検討していく 。
②主体的・対話的で深い学びの実現に向け、全ての教科で研究授業・研究協議を実施しているが、ICTを活用した授業展開をさらに進め、生徒の学習意欲向上につながるように研究していく。
③校則の改定を図り、「守らされているもの」という意識から、生徒自らが規律の意義を理解して「守るべきもの」として行動するという自己指導力の育成を図る。
④学校安全アンケートを適切な時期に年3回実施し、担任、生徒指導、教育相談、スクールカウンセラーが連携して「いじめ」に対して早期発見・早期解消に取り組んでいく。
⑤高い治療率の維持に向けて、全体指導をはじめ、教科指導や保健指導、各クラスや部活動、保護者会においても関係教員に協力を得ながら、組織的に取り組んでいく。
⑥キャリア教育について、大学見学の訪問先や職業理解・進路ガイダンスの講師を適切に選定するなど、生徒の実情や進路希望に対応できるよう改善していく。また、保護者に対する進路情報の提供については、入学式や懇談会等の機会に直接提供するなど、より積極的な方法を考えていく。
⑦本校の特色である地域と連携した教育活動の更なる充実を図るとともに、志願者の増加に向けて関係者の意見を聞きながら、本校の魅力を積極的かつ効果的に発信していく。
⑧施設設備について安全点検及び営繕に努めるとともに、必要な予算について優先順位を明確にして県へ強く働きかけを行う。
⑨教職員のライフ・ワーク・バランスの実現、持続可能な勤務体制の構築に向け、働き方改革を一層強力に推進していく。